

第27回 保守管理検討会 議事録

1. 開催日時: 平成28年10月18日(火)13:30~14:50
2. 開催場所: 日本電気協会 4階D会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
出席委員: 鈴木主査(中部電力), 大崎(北海道電力), 笠毛(九州電力),
金子(日本原子力研究開発機構), 川瀬(北陸電力), 清水(東芝),
中廣(関西電力), 西澤(日立 GE), 長谷川(日本原子力発電),
堀水(原子力安全推進協会), 和地(三菱重工業) (計11名)
代理出席者: 桑田(中国電力・小林代理), 山田(東北電力・天間代理),
大平(四国電力・三好代理) (計3名)
欠席者: 梅岡(電源開発) (計1名)
事務局: 飯田(日本電気協会) (計1名)
4. 配付資料
資料 27-1 原子力規格委員会 運転・保守分科会 保守管理検討会委員名簿
資料 27-2 第26回保守管理検討会議事録(案)
資料 27-3 JEAC4209-201X, JEAG4210-201Xに対する、日本保全学会原子力安全規制関連検討会からのご意見に対する回答案
資料 27-4 日本保全学会規制関連検討会 日本電気協会殿 JEAC4209-201X, JEAG4210-201Xに対する意見
資料 27-5 JEAC4209/JEAG4210 改訂案におけるリスク情報の活用等について (第58回原子力規格委員会のコメントに対する考え方)
資料 27-6 発電用原子炉施設の使用前検査、施設定期検査及び定期事業者検査に係る実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則のガイドの制定について(抜粋)

5. 議事

(1)代理参加者の承認及び会議定足数の確認

事務局より代理出席者の紹介があり、主査に承認された。本検討会委員総数15名に対して代理を含めた本日の委員出席者数は14名で、規約上の決議の条件である『委員総数の3分の2以上の出席』を満たしていることが確認された。

(2)第26回議事録(案)

事務局より資料27-2に基づき、第26回議事録(案)を説明し、承認された。

(3)JEAC4209への公衆審査ご意見の詳細確認について

事務局より保全学会からのご意見への規格委員会の対応について、主査より保全学会からのご意見の聞き取り詳細確認結果について、それぞれ紹介があった。

1) JEAC4209ご意見への規格委員会の対応

- ・日本保全学会から公衆審査において、ご意見があり、事務局から検討会及び原子力規格委員会3役にご意見を送付した。
- ・阿部幹事からご意見の意図を聞くよう指示があり、越塚委員長から技術論であるため、分科会で審議を行うよう、指示があった。
- ・日本保全学会奈良林先生から、メールでコメントをいただいた。その内容は、検査制度の変更もあり、先を見越して対応するようにとのことで、好意的なコメントであった。

2) 保全学会事務局からの聞き取り結果

- ・資料27-5について説明した。
- ・ポイントは、SA設備を使いながら、オンラインメンテナンスができるか、DGを運転中に保全しようとされていて、それができる規格になっているか心配されていたとのこと。これに対して、2-1項の記載を確認し、不安は解消されたとの印象であった。
- ・SAの保全重要度は全て高と認識されていたが、リスク情報を使い、高から低に下げること許容できる規格となっていることを説明。今の時点で規格を出すことはROPとかぶっていることは分かっていたが、PDCAを回しながら、こまめに改定することを条件に認めていただいていることを紹介し、事務局からわかりましたとの回答を得た。
- ・オンラインメンテナンスについて、日本の場合は規格で決めるのではなく、保安規定が支配的になる、ということになっていることを補足した。
- ・アメリカのROPの実情をしっかりと勉強して、それを噛み砕いた上で、やっていかなければならないことを説明した。
- ・保全学会の規制検討会で東電がSA設備保全の問題を提示したときに、保全重要度が全て「高」との誤解があった。今回の資料で、保全重要度が下げられることを記載していなかったことから、このような意見書が発行されたかも知れない。

(4) JEAC4209「原子力発電所の保守管理規程」ご意見対応について

主査より資料27-3に基づき、JEAC4209/JEAG4210の公衆審査におけるご意見及びその回答案について説明があった。

主な意見・コメントは以下のとおり。

○回答について

- ・規格委員会委員長の指示があり、分科会での審議及び規格委員会への報告は必須である。また、最終的にはHPにご意見及び回答をアップする。
- ・今回のパブコメは保全学会の積極的な提案で、発刊に反対するものではない。パブコメのコメントは前向きで後押しをするようなコメントであった。反対意見で

あれば審議が必要かも知れないが、今回は賛成意見というパブコメがあり、紹介するということがか。

→本件は、公に問われたものであり、公に回答する必要がある、と事務局から補足があった。

・いただいたメールでは、積極的提案意見と記載されている。

→メールのやりとりではそう記載してあるが、正式なコメントは資料27-4である。

→公開されるので、何等かの文書が必要である。

・将来に向けた建設的なパブコメである、と事務局から言ってもらくと、後の説明がうまくいくのではないか。

→事務局から状況を紹介することについては問題ないとの回答があった。

→反対とは違う主旨のコメントであったが、丁寧に答えるために分科会で検討することとなった。

○第3層設計基準設備と第4層SA設備について

・ご意見では、第3層の設計基準設備と第4層のSA設備の保全を区別して、と質問されている。

・ご意見の説明をするには、3層、4層の説明PPが1枚くらい必要ではないか。

・ご意見と回答だけを読んで、分科会等の先生方が分からないのではないか。

→DBとSAが3層と4層できれいに分かれているのかというと、両方に使うものがある。そういうところの説明で発散してしまう。

→ご意見のところは主査が読み上げて、口頭で説明を加えることとする。

→簡単に説明した方が良い。質問に書いてあることを回答して、今後の審議で考えるとしてはどうか。

○運転・保守分科会の進行について

・説明予定時間は10分くらいである。

・事務局から将来に向けた建設的なパブコメと事務局から前ふりしてもらえば、その後はスムーズにいく。パブコメというと、反対意見のように思われてしまう。

→事務局から、最初はそのように振ることとする、との回答があった。

・積極的なご意見であるので、山口先生から、検討会の方で継続的に検討することの発言をいただければ良いのではないか。

→山口先生には資料を送付すると言っているので、分科会対応についても、送付することとする、と事務局から補足があった。

○資料について

・主査から、資料の改定部分について説明があり、分科会資料とすることを承認した。なお、主査が資料を改定し、事務局から委員に送付することとなった。

・ここに入力→削除

・【ご回答】→【回答】

- ・「以下と考えています:」→「以下と考えています。」
- ・「～継続していくべき事項と考えております。」→「～継続して検討してまいります。」
- ・「一覧となっています。」→「一覧としています。」
- ・「～今後の検査制度の見直しを含め、知見の取込みを継続していきます。」→「～今後の検査制度の見直しも含め、継続して検討してまいります。」

○今後の予定

- ・10月24日 運転・保守分科会
 - ・12月13日 原子力規格委員会
 - ・原子力規格委員会で承認を受けて、ご意見と回答をHPで公開する。
 - ・初校版は来週くらいに仕上がる、と事務局から報告があった。
- 主査から、初校版の読み合わせは、東北で集まることを考えている、旨発言があった。

以 上